

第71回全国植樹祭 島根式典

令和3年5月30日

本日、緑豊かな大自然が広がる島根県大田市三瓶山において、本県では50年ぶり2回目となります第71回全国植樹祭を開催できますことは、私ども島根県民にとりまして、この上ない喜びであります。

天皇皇后両陛下におかれましては、現下の新型コロナウイルス感染症をめぐる情勢に鑑み、オンラインで、式典にお出ましただいております。県民を代表し、心より御礼申し上げます。

また、大会会長の大島衆議院議長、野上農林水産大臣をはじめとすご来賓の皆様、全国各地からご参加いただきました皆様に心より歓迎を申し上げますとともに、本日、栄えある表彰を受けられます皆様に、心からお祝いを申し上げます。

そして、本大会の開催にあたり、多大なご支援をいただきました関係の皆様へ深く感謝を申し上げます。

島根県は、森を育み、豊かな森の恵みを楽しむという、緑の循環の長い歴史を誇る森林県であります。ここ大田市には、アジアで初めて産業遺産として世界遺産に登録された石見銀山があり、ここで産出された良質な銀が、大航海時代のアジアやヨーロッパ諸国の経済や文化の交流に大きな影響を与えました。

石見銀山では、通常の銀山開発とは異なり、採掘に当たって山を崩さず、鉱脈に沿って狭い坑道を掘り進め、銀の製錬の燃料として伐採された森林は、大切に人の手を加えて再生させるなど、当時から持続可能な森林管理が実践されてきました。

今日、戦後植林された森林資源の多くが成熟しており、「木を伐って 使って 植えて 育てる」営みによって、産業の発展と環境の保全を両立できる循環型林業の取組みを、全国に先駆けて進めることで、緑の循環が揚々と広がりつつあります。

島根県にとりまして、前回大会である、昭和46年の全国植樹祭で昭和天皇にお手植えいただき、平成3年の全国育樹祭で、当時皇太子殿下で有らせられた天皇陛下にお手入れいただいた島根の県木クロマツは、50年の時を経て立派に成長しました。

本日の式典では、このクロマツを全国植樹祭の歴史において初めて、天皇陛下にご収穫いただき、植樹、育樹、収穫・利用の循環を実現することで、循環型林業の意義を共有する、意義深い大会にしたいと考えております。

そして、大会テーマ「木でつなごう 人と森との 縁の輪」のとおり、木を通して、いにしえの時代から築かれてきた「人」と「森」との深いつながり、縁の輪を未来の世代へと、しっかりと引き継いでまいります。

結びに、天皇皇后両陛下のご健勝とご多幸、皇室の限りないご繁栄を心からお祈り申し上げますとともに、国土緑化の一層の進展と、本日もご出席の皆様のご多幸、ご発展を祈念申し上げます。開会に当たってのご挨拶といたします。